

人口問題特別委員会資料

1 人口問題特別委員会委員

任期：令和 6 年 6 月 21 日～令和 7 年 9 月 22 日

役 職	氏 名	備 考
委員長	中 川 隆 志	
副委員長	田 中 晴 美	
委員	岩 田 優 美	令和 7 年 8 月 9 日まで
委員	川 崎 孝 昭	
委員	坂ノ井 徳	
委員	篠 脇 丈 毅	
委員	長 友 光 子	
委員	藤 沢 宏 司	
委員	三 島 好 雄	



2 人口問題特別委員会行政視察報告書

(1) 視察日

令和7年1月20日（月）から1月21日（火）まで（2日間）

(2) 視察先及び視察事項

①静岡県裾野市議会（会派「未来すその」提言書）

②兵庫県相生市（子育て応援施策「11の鍵」）

(3) 参加者 議員9名、事務局2名 計11名

委員長 中川 隆志

副委員長 田中 晴美

委員 川崎 孝昭 坂ノ井 徳 篠脇 丈毅 長友 光子

藤沢 宏司 三島 好雄

議長 山本 達也

随員 議会事務局次長 兼深 博史 書記 古谷 浩介

(4) 視察内容及び視察行程

令和7年1月20～21日、裾野市、相生市への視察を行いました。

裾野市も少子高齢化が進み、町づくりの根幹にかかわる課題となっていました。19人の議員のうち、6人の会派「未来すその」による提言は、当然その課題に向かうものでした。

視点は、産業に元気を取り戻し、豊かな雇用を創出できる町の実現であり、雇用の場づくりでした。

分類としては、交流人口増加のチャンスを徹底的につかむ施策の推進、また、町の賑わいを生み育む基盤整備の加速を打ち出しておられました。

提言としては、自然、食、文化といった地域資源を活かした現地体験型コンテンツの創出を強化すべき時である、また、「持続可能な観光」「消費拡大」「地方誘客推進」の実現に向けて、ショッピングツーリズムの視点を強化し、商業施設の誘致を推し進めるべきとされていました。

農業の産業化を実現するためには、農業法人の誘致に向けて立地支援制度の創設、就業者定着に向けた移住支援と体制の強化及び生産者による戦略作物の提案制度を創出すべきと提案されていました。

調査の目的である会派「未来すその」について、施策の項目毎に、現状、必要性、すべき姿を示し提言にまとめられており、分かりやすいものとなっていました。言葉を変えれば、市民からの要望・意見を会派で整理され、毎年度、執行部への要望事項として、提言という形でまとめられていると考えられました。

裾野市は、箱根エリアの観光ルートでもあり、トヨタによるウーブンシティづくりが始まっており、本市とは少しかけ離れた環境であったようでした。

相生市においては、子育て支援対策の調査でした。

支援対策においては、井原市長が進めておられる施策の方が進んでいると感じました。人口減少にどう対処するかは、財政健全化も大切ではあるが、地域活力向上のために、1 人口減少対策、2 教育子育て少子化、3 産業の活性化などの取り組みをされていました。



3 市民・関係団体からの意見聴取報告書

農業委員会との意見交換会	
開催日時	令和7年5月15日（木） 午前9時45分～午前11時
開催場所	柳井市役所 3階大会議室
テーマ	人口問題に関する提言書素案について
出席委員	副委員長 田中晴美 委員 川崎孝昭 坂ノ井 徳 篠脇丈毅 長友光子 藤沢宏司 三島好雄 欠席 中川隆志 岩田優美
委員外議員	山本達也 平井保彦 平岡実千男
参加者数	農業委員会委員 11名
主な意見等	○人口減少は全国的な問題でいろいろあるが働く場所が課題である。農業は働く場所はあるが給料が払えない。給料を払えれば雇うことができる。農業にとってはこれが一番の課題である。今年はお米の値段が上がって多少は助かる。儲ける中で給料が払えるようにしないとイケない。 ○土地はいくらでもある。本当に人手が欲しい。従業員が欲しい。給料を払うには稼がないとイケないが、稼ぐ手段をどうしようかといういろいろ頑張っている。何かいい案がないか。 ○国は今年度、人手が足りない中で農業を守るための地域計画を策定した。地域計画の外れたとこ、辺鄙なところに国が力を入れてくれたら農業もやりやすくなる。今は資機材も高騰し儲けるどころではなく維持していくのが精いっぱい、お米の値段が上がっても当然だ。お米が自由販売になって昔は一俵2万4千円だったが、今は1万2千円ぐらいに下がっている。昔は個人でやっていた農業が、今はひとまとめにしろ、法人を作りなさいということで、提言書にあるような1市4町ではないが、合併とかそういう形になるのではないか。 ○農地を守るということは国土の保全につながるということも頭の中に入れて農地の保全を考えていただきたい。大雨が降っても田んぼがあれば洪水調整機能ができるので、耕作条件不利農地の営農を継続するような形につなげていただきたい。

○提言書に農業振興整備計画を見直し企業団地の造成とあるが、見直したらできるのではなくて、計画ができれば変更ができる。極端な例がフラワーランド。計画ができて農用地から除外して、整備計画を変更してできるので、そこを考えた文章にしてほしい。

○提言書の空き家対策で、市長に聞くと空き家バンクに登録する人がいないということだが物件はいくらでもある。みんなが登録する道筋を作るためには、家は使えるが土地はあるとか、まだ住めるとか分類して登録し、要望があった時に紹介できるような空き家バンク制度を作らないと名前ばかりでは機能しない。空き家バンク制度を知らない人や地元にはいない人の掘り起こしをすれば登録数も増える。

○農地は3反要件があったが今は撤廃されて少ない面積でも取得できる。今までは農地が付いていたのがネックになっていたが、逆に農地が欲しいという人もいるのではないか。

○農業関係の課題は収益面、経営面、土地利用型の経営をどうしていくかということ。今お米の値段が上がっているのに、団体に任せているので秋には終わっている。農業で経営をしていこうと思えば、自分のところにストックして自分で売っていくことが大きな課題である。経営規模を拡大しても大きな倉庫や冷蔵庫の整備が難しいのが現実である。若い世代の経営者はインターネットで直接販売をしている。ストックができる設備を行政のほうで手助けしてもらおうと助かる。生産者自らが団体に頼らず自分が作ったものを自分で販売できるようになれば、雇用面、収入面も改善するので地域雇用につながっていく。

○農業委員の立場で言うと農地を荒らさないというのが大きな課題である。水の管理とか地域の習慣、農業や林業漁業も保守的で、そこを守らないと生産できないのも事実でなかなか難しい部分がある。国は規模拡大というが、規模拡大もいいが地域コミュニティの崩壊にもつながる。提言の中でそこを改善したら人口が増えるかどうかは違う視点になるかも分からないが、地域コミュニティは農業関係では大きな課題である。

○企業団地の確保で、農地を企業団地にするのであればほ場整備事業で税金を突っ込んでいるところは壁が高い。農地を企業団地にするという発想の中で進めていくのであれば、農振を取っ払って広域指定しやっつい

くしかないが、地権者の反発があるかも知れない。賛同する地権者もあるかも知れないがそこが難しいところでは。仮に広域で指定するというと、余田畑は、ほ場整備はしているが地元の人がいなくなり維持することに非常に苦労している。そういうところであれば可能かも知れない。

○農業委員をしているので近所の人に声をかけているが、一人は女性で、大阪に住んでいる人が田植の時期になると帰ってきて農業をやっている。米を作っている。もう一人は、今まではお米は取りに来るけど手伝いはしていなかった人が、子どもや孫を連れて手伝いに来るようになっている。声掛けすると違うなと思って、小さなところではあるが集落を守るためにみんなで頑張ろうと言ってやっている。

○空き家バンクに登録したらどうかと言ったら家が片付けられないから登録できないという話を聞いた。空き家は住める状態のものは少ないが土地だけ欲しいという人もおられると思う。住める状態がどれくらいあるか、解体しないといけないところがどれくらいあるか分類して登録したらどうか。

○人口問題は、独身では増えない話で、家庭を持たないと話が進まない話ですが、今若い人の意識がずいぶん変わったと思っている。昔は年ごろになれば当然のように結婚して子ども家庭も持っていた。農業でも兼業農家は当然のように後を継ぐという意識で暮らし育ってきた。結婚して暮らしていくためには収入がなければ成り立たない話なので、職場というのは大事なのだろうけど、当然のように結婚して家庭を持つという意識が薄れている。今の時代に人口が増えるというのは難しい問題ではないか。解決策の教育のところで家庭を持つことの意義、将来への希望という文言があるがこの辺りなのかなと。根本的に意識を変えないと、ただ収入が増えたから人口が増えるという問題ではないと思っている。

○農業委員になって農業者がどうしたら自立できるのか考えて地元の農業者にも聞いてみたら、どうやって収益を上げたらいいいのか、どう経営していったらいいのか分からないという声が多かった。経営という視点でアドバイスができる体制を整えるのが 1 つ重要なのかなと思う。農林水産課で定例会があるので聞いてみると、収益を上げる相談には乗るが経営までは市は携わらないということだった。そういうことなら、なおさら経営をサポートするシステムが必要ではないか。若い農業者の方が農地を受

けようと思っても、水路などが老朽化して一人で直すのも大変。経済建設課も見には来てくれるが直ぐのことにはならないということなので、耕作につながらないところもあるので、そこがうまくいくようになればと思っている。



市議会による意見を聴く会	
開催日時	令和7年5月24日（土） 午後2時～午後3時30分
開催場所	柳井市文化福祉会館 2階大会議室
テーマ	①結婚・妊娠・出産・子育て支援について ②移住・定住の促進について ③持続可能なまちづくりについて
出席委員	委員長 中川隆志 副委員長 田中晴美 委員 川崎孝昭 坂ノ井 徳 篠脇丈毅 長友光子 藤沢宏司 三島好雄 欠席 岩田優美
委員外議員	山本達也 平井保彦 平岡実千男
参加者数	全市民対象 90名
主な意見等	○柳井市が他地域よりも非常に激しく人口が減っていくことや移住促進が進まないことを特性にした要因解析をどういうふうに行っているか全然見えてこない。大きいものから手を打たないと結果は出ない。日本の中でも人口が増えている地域はある。人が関係するこの物事はニーズに対応しなければいけない。できたらウオントにやれたら結果は出る。プランAで結果が出なければプランBとして、サステナブルな対策をどう並行して打っていくかということも考えてほしい。

○総務省や中国新聞にも出ていた関係人口という言葉が 1 つのキーワードになっている。柳井でも大きな施設では柳井の出身の方が力を貸している。都市に出ていった人で自分のふるさとではないが、自分の興味があるところにふるさと納税したり訪れてみたりしている人や、地方の役に立ちたいという人がたくさんいる。元岩手県会議員の高橋博之さんが考えたのが都市と地方をかき混ぜること。地域に関係のある人達、縁のある人たちに支援をいただく。こういう人たちをどんどん増やしていく。東京にいる人が柳井に来て東京の仕事をこなしながら柳井のために色んなことをやっていくということも可能な時代になっているので、関係人口ということを書いていただいて是非入れていただきたいと思う。

○自治会長をしているが空き家問題を痛切に感じているので、空き家の取り組みに大いに期待している。空き家をお持ちの方に連絡を取った時に、空き家バンクを皆さん知らないと言う。空き家バンクに登録したら奨励金を出すとあるが、空き家バンクをどうやって宣伝するかが必要だと思う。奨励金を出すことはとてもいいことだと思うが、今の制度は同じ自治会内でないと奨励金が出ないという。もっと広くして、他の自治会あるいは紹介した個人にも奨励金が出れば増えるのではないかな。

○柳井市の人口減少の特徴はどこにあるのかということを明確にし、柳井市の現状を把握して手を打っていただきたい。対策はすべてやるわけにはいけないので、その中で目玉となるものを打ち出してやっていくことが必要だと思う。柳井市の出生数の減少は致命的な数字で、この辺に的を絞りこまないと柳井市の人口はとんでもないことになる。柳井のスーパーで働いている人は柳井の人はいないと言う。若い人が柳井に住みたがらない。魅力がない。柳井の特徴を掴んだ対策を是非作ってほしい。

○徹底して転出の理由、転入の理由を事細かく聞くことが必要ではないか。地に足を付けたアンケートを取っていただきたい。

○先進国でも人口減少、少子化が進んでるが、欧州では人口減少対策が成功している事例もあるので調べて参考にしていきたい。日本中で人口が減っている中で、どこの市町村もいろんなことを考え今日出されていることをされていると思う。移住者を入れるということは多いに賛成。私は埼玉県からUターンしたが、大阪の友達も柳井市の子育て施策はいいなと言っていて、柳井市は進んでいると思う。キーワードはきっかけだと思

う。空き家バンクと同様に柳井市がこういう施策をやっていることを知らない人がいっぱいいると思う。マッチングサービスやお試し住宅、全国には移住したい人はたくさんいて、市町村が取り合っている。そういう人たちに来てもらうのももちろんだけど、移住なんて考えたこともなかったけど、こんないい場所なら行ってみたい、柳井市にゆかりのない人、Iターン者を狙っていかないとプラスにはならない。そのためには柳井市がやっている施策を知ってもらわないといけない。転職は当たり前のように考える時代になって、移住しようかなという感じに持っていけたら地方に流れが進むと思う。きっかけの一つはこの施策を東京駅にでも大阪駅にでも貼ったり、電車の吊革に1週間掲示したりするだけですごくインパクトがあると思う。期間限定で柳井に観光に来てもらって移住の話をするとか、若い人に絞って交流してもらって、移住とか考えてなかった人をターゲットにすると他の市町村と取り合いにならなくていいかなと思う。

○柳井市の良さを理解して取り組まないといけない。柳井市の良さは災害が少ない、自然環境がいいという中で、環境の問題点も考えて進めてほしい。こういう会を開いてくれた議会の方に感謝を申し上げたいし、引き続きやっていただき、行政主導ではなくて、市民が動いて議員の人と一緒に柳井を変えていきたい、元気になりたい、人口を増やしていきたい。観光にも力を入れながらやっていけたらいいのではないかな。

○電車の吊革とか観光のお試しとかあったがすごくいいと思う。プラスアルファとしてSNSの活用、柳井市のインスタグラムをフォローしているけどあまり活用されていないと思う。新しくTikTokを使うと全国の人にすごい数の方の目に入っていくと思うし、そこで柳井の良さをもっとアピールできるようにしたらどうか。柳井の良さは海が近いとか自然環境とか広島が結構すぐ行ける場所にあるところだと思っていて、娯楽施設があるのが理想的ですが、広島に他の地域より少し安くいけるバスとか、下松に行くのも電車で結構な金額がかかるので若者は都会に住んでみたいという気持ちが出る。大学も近くにないし通えないから若者が出ていくので、電車とかバスとかという交通面の支援があって、SNSとかでアピール出来たら住んでみたいと思う。

○広島や下松に行くバスのデザインも金魚ちゃんとか柳井ならではの、柳井の良さが伝わるようなデザインとかQRコードで読み取ったら柳井の良さが伝わる動画とか、デザインも工夫すればいろんな人知って

	もらえると思う。 ○大学の話が出たが、高校に進学するときに柳井ではなくて徳山とか学力が上のところを目指そうとなると他の地域に行くと思う。大学進学となると柳井周辺に大学がないので山口を出ていくと思う。現在柳井中とか柳井商工とかだと、バドミントンが理由で柳井市に来る人もいるので、強い印象を持たれることがあれば移住してくる人も増えてくると思う。 ○柳井市は娯楽施設が少ないと思う。下松は映画館があり広島は柳井よりも発展していて楽しむところが多いと思う。広島みたいとは言わないけど、柳井市だからできる楽しいスポットとかあればいいと思う。 ○半世紀ぐらい花のまちづくりをやってきて昔は盛り上がっていた。駅前今は最低ですね。現地現場、まちを輝かせればまちづくりが成功という信念でやってきた。リーダーシップをとる人は人を輝かせてください。 ○スターバックスとか若者が行きたくなるような店があれば人が来ると思う。 ○Uターンされた方がおられるが、大学に行ってもこの街に魅力があったら帰ってきたくなる。教育の現場でも家庭の現場でも、子供の時に過ごした親元に帰ってきたくなるという心を育てていかなければいけないのではないか。親を見捨てたり自分の住んだところに愛着を持てなかったりするような育て方ではまずいのではないか。 ○私はUターンして親元にいるので人手があるが、Iターン者は、病児保育は絶対必要。関東で子供を育てるのは1人2人が限界ということが身にしみてわかったので、3人それ以上を望むのであれば、病児保育は全体必要と思う。子供を産むのは今は30代ぐらいで、大学に出るのはむしろ出たほうが柳井の良さがわかる。ずっと柳井に住んでいたらこんなに柳井がいいとは思ってなかったかもしれない。20台後半の女性が増えると出生数が増えるのではないかと思う。 ○企業の農業参入の部分で、荒れ地の部分をいかに農業誘致するのか、その部分を農地に戻して企業に参入いただくというのが1つかなと思う。そのあと、そういう人が来られるということは、空き家の活用という部分
--	---

につながってくるのかなというふうに思うので、この辺りが最終的な結論になるのではないかな。

○今、河村さん宮崎さん田口さんが Tiktok でバズって有名になっているので、柳井で経験した人に、イベントを開いてもらい、SNSを活用して広めていけばいいと思う。

○ここに嫁いで46年になるが、柳井は温暖で災害も少なくすごくいいなと思った。今住んでいるところは限界集落で、柳井の素晴らしさをどこで発表すればいいのか。柳井に魅力があれば何年か経ったら帰ってくると思う。それだけ魅力がないことだと思うので一人一人が考えていくことが必要だと思う。農地も空いているが若い人がやっていける方法も考えてもいいのかなと思う。農業機械が何百万円もするので機械を買って貸し出しをする方法もいいのではないかな。農業というものはこんなにいいものだという宣伝をしたらと思う。子育ては手助けがなかったら子供を育てていけません。子育てについてももっとフォローしていくような環境を作らないと出生数は高くなっていかないと思う。

○実家が商売をしていたので戻って来られたが、他の地域の大学に転出することは見聞を広めないといけないうので仕方がないというか逆に推奨すべきだと思う。問題は学んだあとに戻って仕事をする場所がないということで、公務員や銀行員というところで選択肢が限られる。自分の生まれたところに愛着を持っている人はたくさんいると思うので、企業の誘致や商業施設の誘致が有効な手段になるのではないかな。

○やりたいことがあっても地元ではできないので関西や東京に出ていく人が多い。柳井にはこれがあるということがないと思うので、教育面、小中高で柳井でしかできない活動、授業というのが必要かなと思う。

○65歳で定年しUターンで帰ってきた。帰ってきた理由は自然豊かなこの地で何物にも代えられない。岩国からの海岸線CMにも出るようないい場所がたくさんあるので、そういう場所をPRして行って、環境のいいところだから住みたい、子育てもいろんな支援策があるのなら子供のためにはいい場所だという話になってくるのではないかな。そういうところをアピールしてほしい。

○岩国から勤務で柳井に20年通っている。当初は黒杭の道が悪く苦勞したが今は改善され快適に通勤している。交通インフラはすごく大事と思っている。1市4町が連携していくことをまとめられているがその通りだと思ふ。今は車社会であるので、1市4町がしっかり連携し、人の取り合いではなく、地域のブランド力を高めるような、企業誘致や移住の推進というところで前に進めていっていただきたい。



柳井商工会議所地域再生委員会との意見交換会

開催日時	令和7年6月9日（月） 午後3時30分～午後4時52分
開催場所	柳井商工会館 会議室
テーマ	人口問題に関する提言書素案について
出席委員	副委員長 田中晴美 委員 川崎孝昭 坂ノ井 徳 篠脇丈毅 長友光子 藤沢宏司 三島好雄 欠席 中川隆志 岩田優美
委員外議員	山本達也 平井保彦 平岡実千男
参加者数	商工会議所地域再生委員会委員 8名
主な意見等	○提言書の項目が8項目にわたり、総花的になっている感じがする。焦点を絞り、実効性のある計画から優先順位を付け、重要度が高いものを集中して進める形をとり、施策の目的、実行する期限、予算、数値目標、効果検証をどのようにするかということを入れてもらいたい。
○商工会議所委員	
●特別委員会委員	○婚活応援課（仮称）の創設に関する提言について、柳井市公認のマッチングアプリを立ち上げて進めてもらいたい。信頼度や安心感が増し、参加

	率が上がるのではないかと思います。 ○出産に関する提言について、妊婦の安全な搬送体制の強化や病児保育施設の整備は是非やっていただきたい。また、子どもが1人生まれたら500万円進呈するとか近隣の市町にないインパクトのある施策をすれば即効性がでてくるのではないかな。 ○若者、女性の移住や就職の支援が重要だと思う。外から柳井に来て就職する方に家賃補助を行う試みも必要ではないかなと思う。 ○図書館とか保育施設の利便性をもう少し改善してもらいたい。図書館は受験シーズンの年末年始に閉まっているのを別の時期に休みを設けるといった試みを検討してもらいたい。 ○休日夜間応急診療所は、この年末年始はすぐに診てもらえない状況であった。担当した医師だけではうまくいかない現状があるので行政のほうで何かしらの手を差し伸べてもらいたい。 ○「バドミントンのまち柳井」、「野球のまち柳井」などスポーツを基調にした特色のある町にするアイデアを出していただきたい。スポーツ以外にも「白壁のまち柳井」の他に「もの」ではない「こと」に特化した、例えば「健康のまち柳井」とか「ごみの落ちていないまち柳井」といった「何々のまち柳井」というキャッチフレーズを元に特色を打ち出せるとまちの魅力が出るのではないかな。 ○人口増加、移住定住に関して成功事例の調査を積極的行ってもらいたい。今年1月に静岡県裾野市と兵庫県相生市へ人口問題特別委員会で視察しているが、どのようなヒントが得られたのかお聞きしたい。 ●静岡県裾野市へは、議会からの提言をするという取組が初めてであることから、その提言の仕方についてを、兵庫県相生市へは、子育て支援についてを視察した。 ○宮崎県都城市や人口増加に成功した町として注目されている茨城県境町は、ふるさと納税で大きな成果をあげ、財源として活用しており、ふるさと納税の魅力的な返礼品と効果的なPRが柳井市には不可欠ではない
--	--

	か。 ○提言が採用され、実現していく段階においては、デジタルを活用した市民のアンケートを行って効果測定を行いながら進めてもらいたい。 ○人口増加であれば市町村合併が視野に入ってくるのではないかな。 ○官民学連携の協議会を設立し、それぞれの立場でアイデアを寄せ合うという進め方もあるのではないかな。 ○若者や子育て世代の意見を取り入れるために託児施設を設置したイベントとかサークルとかいったカジュアルな意見交換会を行ってはどうか。 ○駅の橋上化については、いくらかかるものなのか。その財源はあるのか。 ●駅の橋上化は規模によって違うが、大体平均で30億円くらいとあり、3分の1は国道交通省の地域交通確保維持改善事業費補助金、JRが3分の1、地元自治体が3分の1で負担することになっている。これまで南口の開設の要望があったが実現していないことから橋上化はかなり難しいが、敢えて出して、押していったらどうかと思っている。 ※負担割合はバリアフリー化の場合であり橋上化は未定 ○子どもが夜熱を出した時に電話をすると柳井では子どもを診られるところはありませんので、徳山中央病院か岩国医療センターへ行ってくださいと言われる。子育てをする上で重要な問題であり、是非提言に入れていただきたい。 ○人口は減るので、その中でどうにかするために行政サービスもダウンサイジングすることを市議会で提言するのであれば、市議会の定数を削減するということを書くべきではないかな。 ○人口減、子育ての問題の当事者である若い人にどういう状況だったら柳井に住み続けて子育てがしたいか、周囲の人に柳井に来るといいと言いやすくなるかをケーキバイキングなどを利用してその率直な意見を聞ける場所の設定をしてもらいたいと思う。
--	---

○柳井市が全国的に空き家の価格水準が安いと「田舎暮らしの本」という雑誌に載ったことがあったそうで、格好のPR材料だと感じた。いろいろな施策の中でよそと比べて圧倒的に有利な点の発信をたくさんしていただきたいと思う。

○昔は、周りの年配の人が結婚相手を探したり、親も結婚を勧めていたが、今はそういうことがない。結婚したいと思っている方はたくさんいるので、婚活をもっと地元で、もっと幅広くAIを使うなどの何か手助けをしていくのが、将来、人口が増えていくひとつの大きな関わりとなるのではないかと思う。

●出会いがしたいけれどできない、機会がないというのが現状だと思う。市が専門の婚活応援課というのを2人くらいの体制で作って、マッチングアプリも導入し、考えられる全ての手段を使って推進していかないとなかなか厳しいのではないかとということで提案のひとつにあげている。

○地域の経済の中で活躍されている女性の方はたくさんおり、そういう方で子どもを産んでということになるとそのサポートをしっかりとあげなければいけない。例えば出産の時に、親元に帰れない場合にヘルパーさんが来て無料でサポートしてくれるとか、働きながら子育てができるということをしっかりみていただきたい。妊娠したとき、出産したときにそれぞれ御祝金をだしたりしたら、柳井に行ったら補助してくれるということで、柳井市で出産しようかなという形になるのではないかと思う。

○県の行政職員でも大学の先生でも良いが、専門家の意見を聞いて柳井の方向性というものを議会と行政と会議所と専門家との4者の協議会で出して行くのが良いと思う。

○日本の人口はどんどん減っている。増やそうというのも大切なことだが、減るということも考えて、減ったときにどうするのか、そういうこともしっかり考えて柳井のまちを前に進めていただきたらと思う。

○都会に比べると田舎は女性が少ない。女性が柳井市で働きやすい環境を作ることが大事で、企業がちゃんと成り立つためには、柳井市内でお金が好循環で回るということ、特に飲食業の場合は、県外・市外から来ていただかないと成り立たない。白壁のまちもあるが、茶臼山というのは本当

に日本で誇れる観光地になると思う。柳井市はおいしい食べ物がいっぱいある。もっと分かりやすい看板にして、観光で50万人をまず目標にノルマをかけて、柳井に来ていただくようになれば、飲食業あるいは土産物も売れると思う。特に観光に関してはPR不足だと思うので市をあげてやっていただきたいと思う。

○農業については柳井で大規模なほ場整備が終わり、長方形、正方形の田んぼになっているから機械化がしやすいと思う。今のような世界情勢からすると本当に食べ物が止められたら大変なことになると思うので米の国産化はしていただきたいと思う。

○林業振興の一環として地産地消であるバイオマス発電の取組を支援すると書いてあるが、市町村でお金を出したところはもう中止していると思うので調べてみてもらいたい。

○漁業について藻を育てていくということにもお金を出して是非おいしい魚をこの柳井界限、瀬戸内のところで作っていただいて、それを食べに来ていただく人を増やしてもらいたい。

○柳井は大変季候もいいし農産物はおいしい。都会の人にセカンドハウスとして空き家を直して使っていただくといいと思う。ヨットとモーターボートのつなぐ場所、管理してくれるところがあれば、東京から岩国空港経由で来る方がおられると思う。人口は増えないが、消費は起こるのでいいと思う。

○子どもをなぜ産まないのか、2人目3人目を考えないのか、そういった声を保育園で子どもを育てている親御さん達の話聞いて欲しいと思う。課題はいろいろあると思うが、人口増には子どもを増やしていくしかない。物価は今ものすごく高く、恐らく国の補助も増えていくと思うが、例えばチャイルドシートを月500円で行政からレンタルできる補助を行う。話を聞いてそういったところをフォーカスしてもらいたいと思う。

○娯楽施設、大型店舗、専門店がないという課題があがっており、解決策に娯楽施設、専門店の誘致と書いてあって全く具体性を感じないので、本当にどれをやりたいのかというのが個人的には見えなかった。提言書案冒頭書いてあるが相当なる覚悟を持って臨んでいかないと変わらない

のではないかとっている。

●提言書案中の娯楽施設や専門店の誘致については市民の方からも若い人からも聞いているが、議会からの提言としてこれを出すときにどこかの店を抽出して、ここというふうに指定するのは、なかなかいろいろな影響があるので、御容赦いただけたらと思う。

○5年後までにどうする、10年後どうする、15年後どうするというビジョン、これからの柳井市のありようをきちんと見定めて、その中でどうしても人口を増やしたいから子どものことについて考えよう、それで子どもが遊びやすいところを作ろうとか、子育てに特化してすることを決めたときにいろいろな問題がそこに集まり、その問題の中でできていることを確認し、1個ずつ柱をきちっと建てていかないと、ばらばらになってもったいないと思う。予算の中から何をどこに集中させていくのかを提言できる提言書にすると市や市長さんも考えやすいと思うし、私達の意見の出し方もより効率よくできるのではないかとと思う。次は是非具体的なことをどうやって行くのかという時間を作っていただきたい。

